

令和6年度 JR加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道
「列車内鉄道絵画展」審査会講評

(1) 応募作品全体について

毎年感じるのですが、出品された作品はどれも力作ばかりで見ごたえがありました。決して描かされたというものでなく、楽しんで描いた絵が多かったのではないかと思います。おそらく列車が好きだからこそ、ここまで集中して描けたんだろうなと想像します。

そんな充実した作品群を見ながら審査するのは大変なことでした。票が割れ、意見を出し合うこともありました。入賞枠の関係で、惜しくも入賞を逃した作品も入賞作品に負けられないような素晴らしい作品がたくさんあったことは言うまでもありません。

これからも、描くことを好きになって楽しんで描いてほしいと思います。

(2) 大賞作品について

カーブミラーに写る列車を描くというこれまでになかった発想で面白い構成になったと思います。裏返しに映った文字もよく観察されていますね。そして、カーブミラーの外の実際の風景も確かな観察力と描写力で描かれ、奥行きを感じる素晴らしい作品となりました。

大 賞



「鏡の中の加古川線」

ふるや はる
古家 陽

(西脇市立重春小学校 5年)